

富士山が魅せる自然美と文化にふれる旅 東海道・ふじのくに逍遥



① 田子の浦港 (富士市)

日本人の「心の象徴」として崇拜されてきた富士山。富士山がこれほどまでに日本人の心をひき付けるのはなぜか。古くから信仰や芸術の対象となり、人々を魅了してきた富士山の歴史と文化を紐解きながら、地元の人々がおすすめる絶景の「富士見スポット」を紹介する。

歴史や文化と結び付く 富士山ビュースポット

標高3,776m、静岡県と山梨県の両県にまたがる富士山。広くなだらかな裾野を四方に広げた美しい円錐状を成し、周りにさえぎるものがないため、東西南北どこから見ても均整のとれた美しさを愛でることができる独立峰だ。さらに、周辺の富士五湖や南側の裾野が及ぶ駿河湾が富士山の美しさを一層際立てる。

まさに日本のシンボルとしてふさ

わしい美観を備えた富士山だが、見る場所や時期によって様々な表情を楽しむことができる。

写真①は、静岡県富士市にある「田子の浦港」から眺める富士山。田子の浦港と言えば奈良時代の歌人、山部赤人が詠んだ次の和歌がよく知られている。「田子の浦ゆ うち出てみれば ま白にそ 富士の高嶺に雪は降りける」。当時の田子の浦は、由比あたりの西側の海岸を指すと言われるが、重要な港湾拠点として人々の生活を支える現在の田子の浦

港からも、雄大な姿をとらえることができる。

写真②は、静岡市清水区の「三保松原」。約7kmの海岸に3万本以上の松が茂り、松林の緑と青い海、打ち寄せる白波のコントラストが美しい景勝地だ。天女が衣を松の枝にかけて水浴びをしたといわれる「羽衣伝説」の舞台として知られ、歌川広重の富士三十六景「駿河三保之松原」など、数々の浮世絵にも描かれている。

写真③は、伊豆の山中にある達磨山の山頂から。昭和14年(1939年)に開催されたニューヨーク万国博覧会にこの駿河湾越しの富士山を収めたパノラマ写真が出品され、世界中から絶賛を浴びた。2000点以上の富士を描いてきた画家の横山大観も、この達磨山からの眺めを多数描いている。



② 三保松原 (静岡市清水区)



③ 達磨山山頂「だるま山高原レストハウス」展望台 (伊豆市)



④ 日本平山頂 (静岡市清水区)

写真④は、静岡市清水区にある日本平山頂からの富士山。眼下に清水港を臨み、広大な茶畑の向こうに富士山を仰ぎ見る絶景ポイントだ。冬は「茶草場農法」によって刈り取られた草束が見られるのも静岡らしさ。展望施設「日本平夢テラス」からは、富士山や三保松原、駿河湾、静岡市街地など360度のパノラマビューが楽しめる。

写真⑤は、駿河湾上から眺める富士山。清水港から西伊豆の土肥港まで、駿河湾を横断する「駿河湾フェリー」の船上からは、富士山のなだらかな斜面を海岸線から山頂まで一望することができる。「静岡県道223(ふじさん)号」に認定された航路は、日本一深い駿河湾から富士山を望む高低差日本一のスポットとも言えよう。

「遙拝」から「登拝へ」 信仰が芸術を生み出した

富士山が古来より「日本のシンボル」として崇められてきたのは、シルエットの美しさだけでなく、日本人の心に深く根付いてきた歴史にある。

富士山は過去何度も噴火と溶岩の流出を繰り返し、人々の生活を脅かしてきた活火山だ。激しい噴煙を上げる様子に荒ぶる神の姿を重ねた人々は、富士山を畏怖の対象として崇め、沈静化の祈りを捧げるために浅間大神を祀った。富士山が見える場所に「遙拝所」を構え、そこから浅間大神に祈りを捧げたとされる。

この遙拝が富士山信仰の起源とされており、全国に約1,300社ある浅間

神社の総本社である富士宮市の「富士山本宮浅間大社」は、富士山をご神体として祀る富士山信仰の中心地として知られている。火山活動が沈静化した鎌倉時代になると、仏教の影響を受けた修験道が盛んになり、多くの修験者が山岳修行で富士山に登る「登拝」信仰が増え、やがて江戸時代には長谷川角行を開祖とする「富士講」が大流行を見せた。

富士講は、富士山登拝にかかる資金を講員から集め、代表者が富士や周辺聖地を巡拝する信仰形態だ。

富士講ブームによって一般庶民も富士山に入るようになると、多くの絵師が富士山を描くようになり、誰もが一度は目にしたことのある葛飾北斎の『富嶽三十六景』(写真⑥)や、歌川広重の『東海道五十三次』にも描かれ、西洋の画家にも大きな影響を与えてきた。

文学でも古くは『万葉集』から『新古今和歌集』『伊勢物語』でも詠まれており、夏目漱石の『三四郎』や太宰治『富嶽百景』など近代文学にも登場するなど、多くの芸術家・作家が富士山をテーマにした作品を生み出している。

富士山がもたらす恵みも麓に住む人々の暮らしにとっては欠かせない。良質で豊富な湧水は田畑を潤し、ニジマスの養殖やウナギの活け締め、ウイスキーやビールの仕込みにも使われている。

富士山の価値を守り 次世代に受け継ぐために

こうして芸術から世界に知られる



⑤ 駿河湾フェリー (静岡市)「清水港～伊豆市土肥港」



⑥ 葛飾北斎『富嶽三十六景』「東海道江尻田子の浦略図」

ようになった富士山は、2013年6月にユネスコの「世界文化遺産」に登録された。

正式名称の「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」が示すように、山体だけではなく富士山に関わる周辺の遺跡や湖沼、神社など25の構成資産を合わせた「世界文化遺産」としての価値を認められた。現在では富士山を保護する観点から、2か月間で30万近い人が来訪する登山道の整備などが進められている。

富士山という自然に信仰や芸術、生活を通して共生する日本人の見えない価値を守り、未来に受け継ぐためにも、今後さらなる環境保全への包括的な取り組みが求められている。

取材・写真協力/
公益社団法人 静岡県観光協会